

自 己 評 価 表

愛媛県立野村高等学校
学校番号(3 9)

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
（普通科） 高校生活で得たさまざまな学びを生かして地域課題の理解及びその解決に向き合う、次のような資質・能力を育みます。 (1) 対話の中で自己と他者の健全な生活を模索し、必要に応じて適切な情報発信を行う力 (2) 各教科の学びで得た知識・技能を土台にして課題を発見し、その解決に粘り強く向き合う姿勢 (3) 地域に身を置いて課題を見つめ、その解決方法を模索する姿勢 (4) 積極的に地域と協働し、自分と自分の生活を大切にしようとする態度 （畜産科） 高校生活で得たさまざまな学びを生かして地域課題の理解及びその解決に向き合う、次のような資質・能力を育みます。 (1)対話の中で自己と他者の健全な生活を模索し、必要に応じて適切な情報発信を行う力 (2)体験や実習の学びで体得した知識・技能を土台にして課題を発見し、その解決に粘り強く向き合う姿勢 (3)地域に身を置いて課題を見つめ、その解決方法を模索する姿勢 (4)積極的に地域と協働し、自分と自分の生活を大切にしようとする態度	（普通科） 進路実現に必要な基礎力と主体的に課題を発見して解決する力を育む、次のような教育活動の充実を図ります。 (1)1年次に進路実現の土台である基礎学力を身に付け、2年次に適性や進路目標に応じた類型ごとの専門的な力を身に付けるための「わかる授業」 (2)課題発見能力の育成を目指した教科等横断的な学びや地域課題の発見及び課題解決に必要な実践力を育む生徒主体の探究学習 (3)地域理解を深めるための地域行事への参加、また地域との協働によるワークショップ等の開催 （畜産科） 進路実現に必要な基礎力と充実した実習等を通して、次世代の農業を担うために必要となる実践力を育む、次のような教育活動の充実を図ります。 (1)基礎学力の定着と次世代の農業を担うために必要となる実践力を養う実習や体験学習 (2)地域との協働を通して、地域の現状と課題を理解し、課題解決に必要な実践力や主体性を育む課題研究 (3)地域理解を深めるための地域行事への参加、また地域との協働によるワークショップ等の開催

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
P T A 活動	保護者への情報発信 <u>防災意識の確立</u>	生徒の保護者や家族、地域の方も参加しやすいPTA行事を企画し、PTA活動を一層活性化させる。 <u>防災訓練をより実践的に</u> 行い、防災意識の高揚を図る。	B	・高校祭では、掘り出し市や畜産科施設見学「めちやめちやちくさん」、バザーを実施し、好評だった。 ・2学期末の防災訓練では、3階からの脱出訓練を実施するなど、実践的なものとなった。	・来年度もPTA理事の方々と相談しながら、高校祭でのPTA行事を企画していきたい。 ・年2回の防災訓練では、生徒参加型の実践活動を実施していきたい。
グ ラ ・ デ ュ エ ー シ ョ ン	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上	A	教職員50名が回答。うち4名が十分に成長している（8%）、40名（80%）が成長していると回答しており、両回答をあわせると88%の教員が生徒の成長を実感しており、十分に目標を達成している。	普通科は探究活動、畜産科は課題研究や総合実習等で積極的に地域に出て学んでいるが、アンケート結果では「十分に成長している」と感じる教員の比率が低い。そこで、さらに積極的に地域と交流し、課題発見能力を高めさせることで教員の実感も高めていきたい。
学 習 指 導	家庭学習の充実	1日平均3時間以上の家庭学習時間確保と自主的な取組により、学力の向上を図る。 A 3.0時間以上 B 2.8時間以上 C 2.6時間以上 D 2.4時間以上 E 2.4時間未満	D	調査時における各学年の家庭学習時間の平均は、1年生2.1時間、2年生2.3時間、3年生2.9時間であり、全体平均は2.4時間であった。1・2年生は1学期からわずかな増加が見られた。	・各ホームルームで、家庭学習の意義について理解させ、時間の確保を促す。 ・生徒が目標を立て、振り返りをするとともに、生徒との面談における参考資料として活用する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

学習指導	教科指導の充実	学校生活充実度向上を目指し、自己管理能力を育成するとともに、小テストや課題の精選等きめ細やかな指導により、学力の向上を図る。教科横断型授業や研究授業を実施し、相互授業参観を通して、各教員の授業力を向上させる。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%以上 E 60%未満	C	小テストや課題の精選等きめ細かな指導はできているが、学力向上までには至っていない。教科横断型授業や研究授業、相互授業参観実施を通して、各教員の授業力向上につながっていると考えられる。	・今後も生徒一人一人に対応できるように、小テストや課題の精選等きめ細かな指導を目指し、学力向上につなげていきたい。 ・教科横断型授業や研究授業、相互授業参観については、各教員の授業力向上につなげていくために、継続して実施していきたい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	<u>心のこもった挨拶の励行、身だしなみの徹底100%</u> <u>5分前登校の徹底する。</u> <u>○身だしなみの合格率</u> <u>A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上</u> <u>D 65%以上 E 50%以下</u>	B	・数名の生徒が常に始業ぎりぎりの登校となっていた。 ・身だしなみについては、非常に落ち着いた状況であり、(93%の合格率)ほぼ達成できている。 うっかりで再指導になる生徒が多かった。	身だしなみ指導実施の呼び掛け等を実施するとともに指導日だけでなく、普段より全教職員が生徒への声掛けを行い、平常からの身だしなみの必要性を生徒に意識付けさせていきたい。
	安全教育の充実	<u>交通安全の推進を通して保護者、地域の方々との連携を深め、校内外での事故・事件・違反ゼロを目指す。安心、安全な学校生活環境を構築する。</u> <u>○校内外での事故・事件・違反発生0件を目指す。</u> <u>A 0件 B 1件 C 2件</u> <u>D 3件 E 4件以上</u>	B	登校途中に原付による自損事故が発生した。怪我はなかったものの交差点内での転倒で非常に危険ものであった。	余裕を持った登下校により、安全な登下校を実行させていきたい。
特別活動	自主的活動の充実	<u>ボランティア活動、生徒会活動、学校行事に主体的に参加させる。</u> <u>○ボランティアへの参加率90%以上</u> <u>A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上</u> <u>D 60%以上 E 50%以下</u>	C	多くの生徒が、学校行事や生徒会活動に係わり、充実した学校生活を送ろうとしている。	ボランティア活動の参加率を高めるため、地域行事への参加等への案内を提示して、地域への貢献をあげられるような取組をしていきたい。
進路指導	進学指導の充実	各学年付の進路課員による生徒面接を各学期1回以上実施する。	E	業務多忙のため、実施できていなかった。学年付進路課員がクラス担任も兼ねていることが多いため、自分のクラス生徒の指導が中心で、他クラスまで手が回らないと思われた。	課員に対して取組を促していなかったため、目標に対する意識向上に努める。
		進学目標達成の満足度100%を目指す。	C	現時点で自分の進学先に対して「やや不満」と回答した生徒が2名いた。	総合型・学校推薦型選抜を希望する生徒に対して、本人の明確な志望理由の有無を確認した上で出願させる。
		難関大及び国公立大10名以上の合格を目指す。 A 10名以上 B 7名以上 C 5名以上 D 3名以上 E 2名以下	C	現時点の国公立大学の合格者は5名であり、1次合格者（共通テストの得点を要する入試における合格者）は3名であった。	年内入試に対する個別指導は、十分な成果が表れた。一方、指導する教員の負担が課題であり、教育業務支援員を活用しながら早期かつ計画的に指導を行う。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

	就職指導の充実	就職希望者の <u>就職率100%を目指す。</u>	B	内定者12名、未内定者2名となっている。	就職試験前に体育祭があるため早めの計画と行動を促したい。
保健 管理	保健管理の充実	健康観察や安全点検により、健康意識、安全意識を高め、日本スポーツ振興センター申請件数減を目指す。 保健だよりを通して、保健指導の機会を確保するとともに、自らが自分の健康を管理していく力を身に付けさせる。	B	日々の健康観察や毎月の安全点検を通して、病気やけがへの対策を意識付けることができた。保健だより等でも予防を喚起することができた。 悩みの調査を行い、悩みを抱えている生徒の把握に努め、担任や関係職員で対応することができた。	日本スポーツ振興センターへの申請件数は依然としてあるため、次年度も安全点検や啓発活動を継続していきたい。 「心身の健康」という意識で、呼びかけや観察、職員間の連携を継続していきたい。
業務 改善	職務の効率化及び快適で働きがいのある職場環境の整備	会議の精選、職員提出書類や職員・保護者連絡等のペーパーレス化、不要な押印の廃止など、職務全般の <u>さらなる</u> 効率化を図る。 <u>業務の整理とノー残業デーの増加、休暇取得の促進等を行い</u> 、多忙感の解消及び職務充実感を高める。	C	教員間の連絡や生徒の模試結果等従来紙で配布していたもののペーパーレス化を進めたが、まだ改善の余地がある。 休暇取得の促進やリモートワークの推進は進んだが、業務の整理は不十分であった。	校務系のメッセージ機能を活用したペーパーレス化をさらに推進したい。 本年度校務分掌を整理して1年業務が運用されたので、各課・分掌に内容の整理を促していきたい。
読指 書導	図書館指導の充実	「朝の読書の時間」の改善や呼びかけ等により、図書館の利用につなげる。読書を通じて読解力の向上を目指す。 平均貸出数 A 10.0冊以上 B 8.0冊以上 C 6.0冊以上 D 5.0冊以上 E 3.0冊未満	D	貸出総数は545冊、平均3.8冊（1/31現在） 参考：昨年度平均7.0冊（最終） 電子書籍の貸出総数は118冊（1/31現在）	「朝の読書」が定着しておらず、図書委員からの呼びかけをしっかりと行わせたい。合わせて、図書館の環境整備を行い、読書意識高揚に努めていきたい。
情教 報育	ホームページの充実	CMS方式によるタイムリーな情報発信を行う。また、個人情報保護に努める。 HP更新回数 A 週7回以上 B 週5回以上 C 週3回以上 D 週3回未満 E 更新なし	A	直近4ヶ月（9/1～12/31）のHP更新回数は、週7.8回であった。 （R6:週8.1回、R5:週5.5回）	今後も各学校行事や部活動、生徒会活動などについては、関係職員と連携しながら随時発信していく。
	教育支援クラウドサービス	Microsoft365教職員理解度100%	A	令和7年度ICTスキルチェックリストにおいて、基本的な操作が「できる」「ややできる」と答えた割合は、100%であった。	各関係職員と連携しながら、知識・技術を深め、共有していく。
教相 育談	教育相談の充実	生徒が抱える問題の早期発見に努め、不登校生徒ゼロを目指す。	B	関係職員との連携もスムーズで、SCによる呼び出し相談も充実させることができた。	関係職員だけでなく、職員全体で情報を共有し、生徒を見守っていく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

特別教育 支援	特別支援教育の充実	生徒の実態を把握し、 <u>SC</u> や支援員との連携を図り、計画に基づいた支援を進めることにより、学校生活を円滑に送らせる。校内委員会やケース会議などで、情報の共有、連携した支援体制の構築を図り、該当生徒を集団で支援する体制を作る。	B	支援員の協力のもと、生徒たちの課題や困り感への対応をその都度行うことができた。 生徒自身は「困る」経験が少なく、自ら課題を改善するという段階には至っていない。	支援を要する生徒への対応方法を工夫し、どの生徒へも対応できるようにする。課題を見つけた生徒が、自ら改善していけるようにさせたい。
同和・ 人権教育	人権意識の高揚	年間5回以上の研修や研究活動、交流学习等の人権委員会活動を活性化させ、人権意識を高めることにより、人権問題の解決を図る実践力を養う。 A 5回以上 B 4回 C 3回 D 2回 E 1回以下	B	人権委員会の校内研修は、概ね計画どおりに実施している。また、西予市内の他校生徒との交流学习には、有志生徒も参加しており、学習の場の広がりがみられた。	校外研修等で、人権委員を中心に有志生徒の参加を促し、輪を広げていきたい。また、市人権啓発課と連携しながらフィールドワーク等の方法を考えていく。
農業教育	農業後継者育成指導の充実	農業の担い手を育てる。 卒業生の担い手率(動物関連大学・専門学校を含む) A 12.5%以上 B 10%以上 C 7.5%以上 D 5%以上 E 5%未満	A	今年度卒業生13名のうち、該当生徒は4名のため、30%の担い手率となっている。昨年度も41%と高い担い手率となっており、近年後継者として卒業する生徒が増加している傾向にある。	動物園の整備や全国募集により、目的をもって入学する生徒が増えている。そのため担い手率が高くなる傾向にあるため、来年度からは実態に即した目標数値としたい。
	農業クラブ活動の充実	農業クラブ県大会の各種発表・競技会において優秀賞1つ以上、全国大会での優秀賞1つ以上を目指す。 入賞率 A 100% B 80%以上 C 60%以上 D 40%以上 E 40%未満	A	昨年に引き続き、入賞率は100%となっている。第1回県大会では意見発表で優秀賞、フラワーデザイン競技県大会では最優秀賞を受賞、家畜審査競技県大会では3名が優秀賞、農業クラブ全国大会では鑑定競技で優秀賞、第2回県大会では2名が優秀賞を受賞した。	農業クラブ各種大会の結果は、日頃の学習の成果である。これからも高いレベルの知識や技術を身に付けられるよう、授業や実習を大切にしていきたい。
学校魅力推進	全国募集および本校イベント情報の広報活動の充実	地域みらい留学などの活動を通して効果的な全国募集を行い、本校への入学志願者数を増やす。 また、「動物ふれあい部」をはじめとする、魅力ある本校の活動内容の情報発信を行う。	B	地域みらい留学での県外フェスを中心に、本校生徒と共に参加活動した効果は大きく189組の中学生保護者に本校をPRすることができた。その後18組が本校まで訪問してくれ、「動物ふれあい部」の活動をはじめとする生徒の活動の様子もPRできた。	全国募集をしていく中で、「学びたい」という強い目的意識を持つ中学生が多くなってきていると感じている。そのため、より本校に関心を持ってもらえるよう各科や各分掌と連携をとりながら魅力発信を目指していきたい。
寮務	基本的生活習慣の確立と安全管理の徹底	点呼、巡視による生活指導や設備などの点検を行い、寮内での事故をゼロにする。さらに、社会人に向けての準備期間として、自立した生活態度を身に付けさせる。	C	寮内での大きな事故もなく、安全な寮生活が送れたといえるが、ごみの出し方、生活時間、門限の順守等に課題がある寮生が一部おり、更なる指導と観察が必要である。	県外からの寮生が増えており、ごみの分別の仕方、地域に求められる高校生像のあり方などの基本的生活習慣の指導を1年生の早い時点から徹底する必要があるとともに、保護者にも理解してもらう必要がある。
施設管理	教育環境の整備充実	学習環境の充実・向上を図るとともに、 <u>限られた予算の中で施設・物品の適正な維持管理を行う。</u>	C	運営費で対応できない場合も、高校教育課へ緊急措置として予算要求するなど、学校施設の安全管理に努めることができた。	各管理責任者の毎月の安全点検が不十分である。日々の点検を確実にを行い、適正な維持管理に繋げていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。